

主要産地における平成26年産水稻の生育状況等について 第8報 (7月22日現在)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 (平成26年7月23日)

道府県	区分	生育状況等	同左及び周辺事情に対する自治体等公表資料等(抜粋)
		育苗・田植進行状況・生育状況等(自治体等公表資料の抜粋) 平年に対する遅速等	
北海道	(生育)	<p>(全道) 7月前半は、気温が高く、おおむね平年並の日照時間であった。降水量は少ない地域がある一方、台風の影響などで局地的に雨が降った地域もあったが、全体的には雨降りに生育している。草丈：やや長い、葉数：平年並、葉数：やや多い。 生育はやや早く(早田) 一部地域で収穫が始まった。 (北海道農業改良センター 7月15日現在)</p> <p>(空知) 生育は雨降りに進んでいる(早4日)。草丈：平年並、葉数：平年並、葉数：やや多。(空知総合振興局7月15日現在)</p> <p>(石狩) 生育は雨降りで(早4日)草丈は長い、葉数：平年並、葉数：多い。(石狩振興局7月15日現在)</p> <p>(後志) 生育は雨降りで、平年より5日早く生育している。草丈：長い、葉数：平年並、葉数：多い。(後志総合振興局7月15日現在)</p> <p>(釧路) 早田により、生育は早い(早6日)。草丈：やや長、葉数：やや多、葉数：多。(釧路総合振興局7月15日現在)</p> <p>(日高) 生育は平年より5日早く推移している。草丈：やや長、葉数：平年並、葉数：多。(日高総合振興局 7月15日現在)</p> <p>(渡島) 生育は平年より5日早く推移、幼穂形成期は7月6日。草丈：長い、葉数：平年並、葉数：多。(渡島総合振興局7月15日現在)</p> <p>(伊達) 生育は雨降りで、平年より4日早い。草丈：平年並、葉数：やや多い、葉数：やや多い。(伊達総合振興局7月15日現在)</p> <p>(上川) 生育は、平年より5日早く推移している。草丈：やや長、葉数：平年並、葉数：やや多。(上川総合振興局7月15日現在)</p> <p>(留萌) 早田により生育は雨降りで(早6日)。草丈：やや長い、葉数：平年並、葉数：平年並。(留萌振興局7月15日現在)</p> <p>(オホーツク) 生育は進んでいる(早6日)。草丈：平年並、葉数：やや少ない、葉数：少ない。(オホーツク総合振興局7月15日現在)</p>	<p>・アカドゲホソリドミドリカメガキが早発・多発している。(北海道農業改良センター 7月18日公表)</p> <p>・7月の寒いもの発生期は平年よりやや早く、発生量は平年並と予想 ・ニカメイガの発生期は平年より早く、発生量は平年並と予想 ・ウナコロの第2回成虫の発生期は平年より早く、発生量は平年よりやや多いと予想 ・イネドロイムシ(脱糞)の7月の発生量は平年より少ないと予想 (北海道農業改良センター 7月2日公表)</p> <p>・各地(道南主体に道北、道北)でアヲヨトウの発生を確認。発生量はやや多〜多。 幼虫発生に注意し、早めの防除対策の注意報。 (北海道農業改良センター 7月3日公表)</p>
		<p>・7月15日現在の生育は、平年を上回っている。生育が2〜3日早まり出穂期は8月上旬となる見込み。(青森県 7月15日現在)</p> <p>・つがるロマン(黒石) 生育状況は、草丈は4.5cmで平年より3.9cm長く、㎡当たり葉数は668本で平年より2本多く、葉数は10.8葉で平年より0.2葉多い。 積算分化期の到達日は7月3日、幼穂形成期の到達日は7月10日で、ともに平年より2日早い。 6月30日から7月9日までの平均気温は平年に比べ1.3℃高く、日照時間は平年比169%とかなり多かった。 (7月10日現在)</p> <p>・まっしら(十和田) 生育状況は、草丈は69.9cmで平年より5.4cm長く、㎡当たり葉数は542本で平年より75本少なく、葉数は10.0葉で平年より0.2葉少ない。 積算分化期の到達日は7月4日、幼穂形成期の到達日は7月11日で、ともに平年より1日遅い。 6月30日から7月9日までの平均気温は平年に比べ0.8℃高く、日照時間は平年比129%と多かった。 (7月10日現在)</p> <p>(青森県農業技術センター-農林総合研究所 7月10日現在)</p>	<p>・木造、鶴田では寒いもの発生頻率及び発病率が増加している。 (青森県農業改良センター 7月18日公表)</p> <p>・斑点米カメムシ類の産卵量や次世代の発生量が多くなり、出穂期〜登熟期にかけて本田への侵入量も多くなると予想される。 (青森県農業改良センター 7月11日公表)</p> <p>・東北の一部地域では、イネいもち病、イネ紋枯病の発生が「やや多い」と予想。斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予想。 (農林水産省 7月10日公表)</p>
岩手	(生育)	<p>・県全体平均では、草丈59.7cm(平年より2.1cm長い)、葉数595本/㎡(平年比109%)、葉数は10.5葉(平年より0.3葉多い)といずれも平年を上回っているが、冷涼な地域を中心に生育の遅れが確認されている。各品種とも生育量は平年を上回り、収量確保に必要となる葉数は各地とも確保されている。葉色は各地とも低下傾向。 ・生育診断用の品種別集計表(各農業改良普及センター調べ)</p> <p>「いわてっこ」 草丈66.2cm(平年差+1.8cm)、葉数611本/㎡(平年比110%)、葉数は9.6葉(平年差0.4葉) 「あきたこまち」 草丈67.9cm(平年差+3.0cm)、葉数643本/㎡(平年比109%)、葉数は10.0葉(平年差+0.2葉) 「どんぴしゃり」 草丈59.2cm(平年差-0.2cm)、葉数506本/㎡(平年比104%)、葉数は10.6葉(平年差+0.5葉) 「ひとめぼれ」 草丈61.2cm(平年差+2.4cm)、葉数619本/㎡(平年比112%)、葉数は11.0葉(平年差+0.3葉) (中央農業改良普及センター-稲産量普及グループ 7月10日現在)</p> <p>・北上(農業研究センター) 「ひとめぼれ」、「あきたこまち」の草丈は平年より長く、葉数は「ひとめぼれ」は平年よりやや多く、「あきたこまち」では平年並み。 「あきたこまち」は7月6日(平年より4日早い)、「ひとめぼれ」は7月8日(平年より4日早い)、「ひとめぼれ」は7月11日(平年より4日早い)に達した。</p> <p>・軽米(県北農業研究所) 「いわてっこ」の草丈は平年より長く、葉数は平年より多く、葉数は平年並み。葉色は平年並ややや上回っており、追肥の効果が出始めている。 幼穂形成期は、7月6日(平年より5日早い)に達した。 (岩手県農業研究センター他 7月15日現在)</p>	<p>・平年より多くの水田雑草でカスミカダモノ類が発生・発生量も多い。 (岩手県農業改良センター 7月14日公表)</p> <p>・東北の一部地域では、イネいもち病、イネ紋枯病の発生が「やや多い」と予想。斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予想。 ・北東北の一部地域では、フタオビコヤガの発生が「多い」と予想。 (農林水産省 7月10日公表)</p> <p>・いもち病がやや多い予想。斑点米カメムシ類は平年並の予想。 (岩手県農業改良センター 6月30日付)</p>
		<p>(県全体) 水稲の生育は平年に対して4〜5日早く、幼穂形成期(県全体の平均)は7月8日頃で、出穂期(県全体の平均)は8月1日頃になると見込み。草丈は平年比104%、1㎡あたりの葉数は平年比105%、葉数は平年並で0.4葉多い。(宮城県 7月10日現在)</p> <p>(大河原) 7月10日現在の草丈は並み〜やや長い。葉数は並み〜やや多い。葉色は並み。概ね、目標葉数は確保されており、またほとんどの田では新葉が伸び始める。葉数の減少が始まった田もある。平田で田植えの早かった田舎品種では、幼穂形成期(幼穂長1mm)に入る。早稲品種は、7月11日現在、幼穂形成期(幼穂長15日以内)に入った。早稲の生育は平年並より早く、残存葉数の減少が早い。 (仙台) 播種後田舎の一部田舎に入った。「倒伏危険域」にある田舎は、追肥は必要ない。 (大船) 草丈は、平年比に比べ約5%長い。葉数は10〜30%多い。葉色は平年並より4〜6割ほど高い。平均、丘陵地帯では、幼穂長が1mmになっており、7月8日頃に幼穂形成期に入っている。山間地域の中央のしずくでも幼穂が確認されており、7月12日に幼穂形成期が経過するとみられる。出穂期の予測は平均田舎における中央品種では8月3日頃と予想。 直穂は、草丈はほぼ平年並。葉数は目標の80%を確保しており、生育は雨降りで7月23日〜30日頃に幼穂形成期に達する予想。 (大船農業改良普及センター 7月10日現在)</p> <p>(美里) 移植栽培は、平年より気温が高く推移したことから、生育が早まっている。有効葉数400〜500本以上を十分に確保している。一部は播種後1mmの幼穂が確認されている。幼穂形成期は平年より4〜5日早まる見込みで、7月上旬には、幼穂形成期(幼穂長1mm)に入ることが予想される。直穂栽培は、草丈・葉数・葉数が雨降りに増加し、生育は概ね順調。 (原原) ひとめぼれの生育は、草丈・平年並からやや長い(平年比97〜107%)、葉数・平年より多い(平年比104〜152%)、葉数・平年並からやや多い(平年差+0.2〜0.4葉)、葉色・ほぼ平年並み(平年比96〜103%)、幼穂長・平年より長い(平年差+3.0〜+11.0mm)、5月20日移植以降でも幼穂形成期に達している。管内の大部分の田舎は幼穂形成期に達していると思われる。移植時期の早かった田舎では間もなく減収分収期を迎えることが予想される。北部平均田舎における中央品種の出穂期は8月3日頃と予想。気温が高く推移する可能性があるため、生育診断が予測より早まる可能性がある。 (原原農業改良普及センター 7月10日現在)</p> <p>(登米) 生育調査後の生育は、平年と比べて草丈は平年並〜やや長く、葉数は田舎によってバラツキがあるが、移植栽培では7月1日調査に比べ、減少している。葉数は平年並〜やや多く、葉色は同程度〜やや濃い。移植栽培の播種は7月9〜10日に幼穂形成期に入っている。 (石巻) 葉数は、調査田平均で50本/㎡(平年比126%)と概ね平年並。葉色は、調査田平均で36.4%の(平年差+1.3%)と概ね平年並で、調査田平均で5.0mmで、比較的低く刈り取り調査は(播種前栽培)を除き、すべての田舎で幼穂形成期(幼穂長1mm)に達している。調査田平均では3.8mm(平年差+3.0mm)で、平年より生育が進んでいる。 (石巻農業改良普及センター 7月10日現在)</p> <p>(本吉) 生育は平年より3〜4日遅い。葉色はやや濃い傾向。幼穂長は、気仙沼市(ひとめぼれ)、南三陸町(ササニカメ)ともに1.3mmとなっており、移植後幼穂形成期(平年より4日早い)7月9日に確認された。出穂期は、今後の推移が平年並に推移した場合、育苗調査よりも出穂期は8月4日と予測。京成農まづくり本館情報では、三陸沿地域の出穂形成期は7月8〜16日、出穂期は8月7〜13日と予測。 (本吉農業改良普及センター 7月10日現在)</p>	<p>・東北の一部地域では、イネいもち病、イネ紋枯病の発生が「やや多い」と予想。斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予想。 (農林水産省 7月10日公表)</p> <p>・7月下旬までの寒いもの発生時期は7月3日頃で、発生量は平年並、紋枯病の発生はやや多、穂こうじ病は平年並の予想。 斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ)の発生は、7月8日頃とやや早く、発生量は多い予想。 (宮城県農業改良センター 7月8日公表)</p> <p>・斑点米カメムシが水田雑草の残株により、本田内にも多発傾向。対象地域は県内全域、発生量は多いの注意報。 (宮城県農業改良センター 7月4日公表)</p> <p>・7月上旬までの寒いもの発生量はやや多く、コナネイガもやや多い予想 (宮城県農業改良センター 6月23日公表)</p>
秋田	(生育)	<p>(鹿角) 草丈65.5cm(平年比106%)、葉数11.4葉(平年差+0.5)、葉数553本/㎡(平年比96%)、葉色28.9(平年比95%)で、葉色は圃場との差が大きく早急に追肥が必要な圃場も見受けられる。幼穂長は8mmで幼穂形成期を2〜3日過ぎ、平年より早く進んでいる。(7月15日現在)</p> <p>(北秋田) あきたこまちの生育は、草丈65.6cm(平年比103%)、㎡当たり葉数は544本(同94%)、葉数11.2(平年差+0.1葉)、葉色28.9(平年比95%)と、平均に比べ草丈はやや長く、葉数は少なく、葉色は濃い。状況は、葉数は少ない状況。(7月15日現在)</p> <p>(山本) 草丈66cm(平年比100%)、葉数567本/㎡(同110%)、葉色40.5(同96%)、葉数11.3葉(同9.3葉)で「平年に比べ草丈は多く、葉色は濃い」。(7月15日現在)</p> <p>(秋田) 草丈67.5cm(平年比107%)、葉数は551本/㎡(平年比99%)、葉数は10.9葉と平年並(平年差+0.1葉)と、ほとんどの田舎で幼穂形成期に入っている。(7月15日現在)</p> <p>(仙台) 草丈65.7cm(平年比103%)、葉数574本/㎡(平年比113%)、葉数10.8(平年差+0.2葉)、葉色39.8(平年比99%)となっている。葉数は多く、葉色、葉数は平年並、多くの田舎で幼穂形成期を迎えている。(7月15日現在)</p> <p>(平岡) 草丈65.6cm(平年比102%)、葉数588本/㎡(平年比118%)、葉数11.1葉(平年比+0.3葉)、葉色41.7(平年比98%)と葉数が平年より多くなっている。(7月15日現在)</p> <p>(雄勝) 葉数11(平年差+0.1)、草丈63.5cm(平年比99%)、葉数553本/㎡(平年比106%)、葉色41.7(平年比96%)。(7月15日現在) (秋田県農林総務課 7月18日現在)</p>	<p>・東北の一部地域では、イネいもち病、イネ紋枯病の発生が「やや多い」と予想。斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予想。 ・北東北の一部地域では、フタオビコヤガの発生が「多い」と予想。 (農林水産省 7月10日公表)</p> <p>・水田周辺の斑点米カメムシ類の発生は更に多くなるとの注意報。 (秋田県農業改良センター 7月10日付)</p> <p>・7月の寒いもの発生量はやや多く、斑点米カメムシ類の発生量はやや多い〜多く、穂こうじ病はやや少ない予想。 (秋田県農業改良センター 6月26日付)</p>

注1：地方自治体及び出先機関並びにJA等がホームページで公表している資料を米穀機構情報部で取り組み。
注2：生産数量目標、収穫量、作況については、農林水産省の公表資料から抜粋。

		生育状況等
山形		<p>・7月18日現在の平均値「はえぬき」は、葉数はやや多く、草丈・葉数・葉色ともに昨年並みとなり、良好な状態になっている。 <u>出穂期は「あきたこまち」が平年より2日程度早く、「はえぬき」、「つや姫」が3日程度早く、「コンヒカリ」は、2日程度早まる予想。</u> <u>(山形の米日本一推進本部 7月18日現在)</u></p> <p>(庄内) 葉数が平年比123~134%と多く、草丈は短く、葉色は淡くなっている。平均ですべて10葉目が展開中で、平年よりも生育が3日程度進んでいる。 「つや姫」の生育は、草丈は並、葉数は指標より多く、葉数は指標並で、葉色は順調に低下している状況にある。 直穂数値(カルバーコーティング) 出芽・苗立ちが概ね良好。葉数が適期気味のほほも多くなっている。 草丈がやや長く、葉数は多くなっている。 (鉄コーティング) 葉数から見た生育は昨年と比較すると5日程度進んでいる。 (庄内総合支庁 6月30日現在)</p> <p>(村山) 生育は平年並み。葉数は全粒に目標の水準を確保。一部でやや多いところもあり。(村山総合支庁 6月30日現在) 「つや姫」の葉数は目標を確保し、やや多いところもある。草丈は短く、葉数と葉色はほぼ指標並。 (村山総合支庁 6月30日)</p> <p>(置賜) 6月30日現在の生育は、はえぬきは草丈、葉色は並み程度、葉数は多く、葉数はやや多い。 つや姫の生育は、草丈が指標よりやや短く、葉数は多く、葉数は並みからやや多く、葉色は平年並み。 (山形の米日本一推進運動推進地域本部 6月30日現在)</p> <p>(最上) 現段階の調査で、出穂時期は平年より3日程度早まること予想されており、早生品種ではすでに幼穂分化が確認されている。しかし、移植時期や地域によっては生育にバラツキがみられる。 「つや姫」の生育は、つや姫の生育は順調。現段階の調査で早生・中生品種の出穂時期は平年より3日程度早まり、出穂時期も同様と予想。(最上総合支庁 7月7日付)</p> <p>(酒田) 生育診断は「はえぬき、ひとめぼれ」の生育は、草丈は短く、葉数は概ね確保され、葉数が平年と比べ1葉近く進んでいる。葉色はやや濃い状況。今年葉数の展開スピードが平年より3~5日程度早く、例年よりも穂肥施用時期が早まると予想。早生~中生品種の今後の出穂は平年より3~5日早まると予想。 つや姫の出穂は3日程度早まる予想。草丈は平年並み~やや短く、葉数の展開は早い、葉数は平年並み~やや多い、葉色は平年並み~やや濃い。(庄内総合支庁酒田農業技術普及課 6月30日現在)</p> <p>(大雨被害) 7月9日の大雨により、置賜地区・村山地区を中心として水稲などの冠水・浸水がみられたが、村山地区、最上地区では大半が既に排水されている。一方、置賜地区では南陽市赤湯地区の白竜湖周辺で水稲の冠水・浸水が継続しており、生育への影響が懸念される。(山形県 7月11日15時現在)</p>
福島		<p>・葉いもちの発生拡大が懸念されている。(福島県病害虫防除所 7月16日公表)</p> <p>・東北の一部地域では、イネいもち病、イネ紋枯病の発生が「やや多い」と予想。斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予想。 (農林水産省 7月10日公表)</p> <p>・斑点米カメムシ類が、県下全域で発生量や多いとの注意報 (山形県病害虫防除所 7月2日付)</p> <p>・7月の発生量は、葉いもちと紋枯病は平年並、斑点米カメムシ類はやや多い、コバネイナゴはやや少なく、フタタビコメダガ(47羽)は平年並の予想 (山形県病害虫防除所 6月25日公表)</p>
茨城		<p>・葉いもちの発生拡大が懸念されている。(福島県病害虫防除所 7月16日公表)</p> <p>・東北の一部地域では、イネいもち病、イネ紋枯病の発生が「やや多い」と予想。斑点米カメムシ類の発生は「多い」と予想。 (農林水産省 7月10日公表)</p> <p>・斑点米カメムシ類が平年より多く確認されている。 (福島県病害虫防除所 6月30日付)</p>
栃木		<p>・7月上旬現在、すくい取り調査虫数は平年よりやや多い(茨城県病害虫防除所 7月22日公表)</p> <p>・県内の広範囲で葉いもちの増加が予測されている。(茨城県病害虫防除所 7月10日公表)</p> <p>・7月のいもち病の発生量は平年並~やや多く、発生は県下全域の予想 斑点米カメムシ類の発生時期はやや早く、発生量はやや多く県下全域の予想 (茨城県病害虫防除所 7月1日公表)</p> <p>・イネ紋枯病の発生は、関東の一部地域で「多い」と予想 ニカメイガの発生は、北関東の一部で「多い」と予想 (農林水産省 6月19日公表)</p> <p>・ヒメトビウンカ第二世代幼虫の発生がやや早い状況。 (茨城県病害虫防除所 6月20日公表)</p>
埼玉		<p>・7月下旬~8月下旬の斑点米カメムシ類の発生量はやや多い予想 (栃木県農業環境指導センター 7月16日公表)</p> <p>・イネ紋枯病の発生は、関東の一部地域で「多い」と予想 ニカメイガの発生は、北関東の一部地域で「多い」と予想 (農林水産省 6月19日公表)</p> <p>・6月天のイネ科雑草駆除すくい取り調査結果では、アサジカスミカメの発生が目立っている。(栃木県農業環境指導センター 7月1日公表)</p> <p>・6月下旬~7月下旬のいもち病発生量：やや少ない、綿葉枯病(ヒメトビウンカ媒介)の発生量は県中南部で多い予想。 (栃木県農業環境指導センター 6月20日公表)</p>
千葉		<p>・早期、早穂栽培(コンヒカリ)の全体の生育(16か所平均)は、草丈はやや高く(平年比104%)、葉数はやや少なく(96%)、葉色は0.4近く、葉数は3葉多い。葉齢から判断すると、生育は平年より2~3日程度進んでいる。幼穂長は0.41cmで幼穂形成期(出穂前20日)を過ぎている。生育診断値(葉色×葉数)は平年比85%と小さいが、概ね生育診断指標値の適正範囲内と考えられる。 ・普通栽培(あきたの夢)9か所平均は、草丈は1.65mで平年比95%とやや短く、葉数は30枚/m²で平年比98%と少ない。葉齢は8.1葉で平年より0.6葉多く、葉色は4.6で平年より0.1近い。葉齢から判断すると、生育は平年より2日程度進んでいる。葉色×葉数値は1.347で平年比85%と小さい。 (栃木県農政部 7月7日現在)</p> <p>・早期、早穂栽培の生育は、6月上旬の暑期により一時停滞気味であったが、その後回復し、草丈、葉数は概ね平年並みで、高温により幼穂分化はやや早まっている。早期栽培の中心も概ね順調に行われた。今後の生育は概ね順調に推移すると思われるが、向こう1か月は高温、蒸発の可能性が高いことから、軟弱気味の生育となり、中干しが遅れたり不十分なほ場では、倒伏の発生や弱小茎の増加が懸念される。出穂期は葉位の変遷が進んでいることから、平年並から3日程度早まると予想される。 普通栽培は、苗はやや軟弱気味であったが、活着は良好で、初期生育も順調。今後の生育は概ね順調に推移すると思われるが、早期、早穂栽培同様、中干しが遅れたり、不十分なほ場では倒伏の発生や弱小茎の増加が懸念される。 (埼玉県農林総合研究センター水田農業研究所 7月6日現在)</p> <p>・南関東の一部地域では、イネいもち病の発生が「やや多い」、イネ綿葉枯病、斑点米カメムシの発生は「多い」と予想。 (農林水産省 7月10日公表)</p> <p>・綿葉枯病と斑点米カメムシの発生が多く、いもち病(葉いもち)とツマグロヨコバエの発生がやや多いと予想。 (埼玉県病害虫防除所 6月30日付)</p> <p>・斑点米カメムシ類の水田での破格数が平年より多く、斑点米の発生が懸念。 (埼玉県病害虫防除所 6月30日付)</p> <p>・イネトムシの本年の孵化発見日は7月28日と予想。 (埼玉県病害虫防除所 6月18日作成)</p>
千葉		<p>・南関東の一部地域では、イネいもち病の発生が「やや多い」、イネ綿葉枯病、斑点米カメムシの発生は「多い」と予想。 (農林水産省 7月10日公表)</p> <p>・7月のいもち病は平年並、斑点米カメムシ類はやや多い~多い予想。 紋枯病、こま葉枯病、イネクワカメムシはやや多い予想。 (千葉県農林総合研究センター 7月9日公表)</p> <p>・イネ綿葉枯病の発生は、関東の一部地域で「多い」と予想 (農林水産省 6月19日公表)</p>

		生育状況等									
新潟	(生育)	<ul style="list-style-type: none"> コシヒカリの出穂期は、県平均で8月6日で平年より2日程度早まる見込み。生育は、指標値に比べ草丈「並び」、葉数は地域差が大きく「並び」から「多い」。葉色は「並び」であるが、地域差・ほ場差が大きくなっている。地域別には、葉数は新発田、南魚沼上程で多く、葉色は巻、魚沼、南魚沼で濃い色。 こしいぶきの出穂期は、7月29日で平年より2日程度早まる見込み。生育は、指標値に比べ草丈は「並び」、葉数は「やや多い」、葉色は「濃い」状況。 斑点米カメムシ類の多発発生警報が発令された。 (新潟県農林水産部 7月17日現在) (新潟) 草丈、やや短～並葉数、葉数は、やや多い(葉色、葉「一部濃い」、各地で幼穂が確認されており、出穂期は平年より早い見込み(ほ場間差大きい)。(村上農業普及指導センター 7月17日現在) (新潟) 草丈、75cm 指標比100% (葉)、葉数、489本/m² 回122% (多)、葉数、11.9葉指標差+0.3葉 (葉)、葉色、葉緑素計32.7回-0.3 (葉)、指標値に比べ、葉数は多いが、ほ場指標値となっている。コシヒカリの出穂期は平年より2日程度早まる見込み。穂長はほぼ指標値以内(6cm)。(佐藤農業普及指導センター 7月17日現在) (新潟) 生育は「目録値並」、コシヒカリの生育状況は、草丈75cm (指標比99%)、葉数414本/m² (指標比105%)、葉齢12.0葉 (指標比-0.2)、葉色33.7 (指標比-1.2)、ほ場によっては葉色が非常に濃いほ場が見られる。 (新潟) 新潟農業普及指導センター 7月17日現在) (新潟) コシヒカリの出穂期は、平年比2日程度早まる見込み。草丈は、指標値並であるが葉数に比べるとやや短く、葉数はほ場間差、地域間差が大きく、平均すると指標値並。葉色は、急激に暗めはじめているほ場が散見される。幼穂形成期と出穂期の予測は、田植え5月5日で幼穂形成期7月12日と出穂期8月4日、田植え5月10日で7月13日と8月5日、田植え5月15日で7月16日と8月6日。(7月10日現在) (新潟) 新潟農業普及指導センター 7月10日、7月17日現在) (巻) 草丈：「前」、葉数：「前」、葉数：「やや多」、葉色：「濃」、日照不足等で、葉色は、指標値に比べ「濃」に推移し、草丈も伸長してきているため、樹状に注意が必要となってきている。コシヒカリの葉色が濃い傾向。コシヒカリの出穂予想は、昨年並みか1日程度早い見込みである。(佐藤農業普及指導センター 7月17日現在) (三条) 幼穂形成期の理想的な姿に近い生育量になり、第1回目の穂肥ができる稲葉になった。出穂期は1日程度早まる見込み。コシヒカリの出穂期は8月3日の予想。(三条農業普及指導センター 7月10日) (長岡) 生育は平年より3日程度早く、稲葉生ではすでに出穂期を超過している。五百石等の早生でも、生育の早い一部ほ場で出穂期を迎えている。コシヒカリの生育は、指標値に比べ、草丈は並、葉数はやや多い、葉色はやや濃い(7月10日より指標値との差は縮小している。葉色は、ほ場間差が大きく、葉色(SPAD値)で30を切り葉差測度が懸念されるほ場も一部見られる。(長岡農業普及指導センター 7月17日現在) (魚沼) 草丈、前、葉数、やや多い、葉数、やや多い、葉色、やや濃い、コシヒカリの出穂は平年より2日程度早い見込み。出穂期は7月27日程度(草丈)は7月10日、5月24日程度(小出)は8月5日、5月26日程度(入道)は8月10日の見込み。(JJA北魚沼、魚沼農業普及指導センター 7月14日現在) (南魚沼) コシヒカリの生育は、指標値に比べ草丈は「前」、葉数は「多」、葉色は「濃い」状況。特に、降雨・曇天の気象状況などから、葉色の濃色が確認されている。幼穂の伸びもやや遅延しているが、出穂期は平年並～2日程度早いと見込まれる。(南魚沼農業普及指導センター 7月17日現在) (十日町) 十日町の生育は、平坦部では草丈「やや短い」、葉数「前」、葉色「濃い」、高標高地(400m以上)では草丈「短い」、葉数「やや多い」、葉色「濃い」状況。出穂予想は、コシヒカリは8月6日、百石石は7月29日、こしいぶきは7月30日、こがねもち8月2日、今後高温予想となっているため出穂期は早まる可能性がある。津軽の生育はほ場間差が大きい。草丈「前」の状況、一部の中心土の遅れたほ場では葉数が多くなっている。(十日町地域農業振興協議会 7月1日現在) (柏崎) こしいぶきの生育は、指標値に比べ草丈はやや長く、葉数は多く、葉数は並、葉色はやや濃くなっている。コシヒカリの生育は、指標値に比べ草丈は並、葉数は多く、葉数は並、葉色はやや濃い。コシヒカリの出穂期は、5月10日頃頃までは7月27日程度、5月20日頃頃までは7月10日程度、5月24日頃頃までは7月14日程度と推測。(新潟県農業普及指導センター 7月10日現在) (上越) 草丈、前(指標値比103%)、葉数、多い(124%)、葉数、前(+0.3葉)、葉色、前(葉色値+0.5)、ほ場ごとに生育のバラつきが大きくなっている。コシヒカリの出穂は平年より2、3日早いと見込まれます。(5月10～15日頃の田植えで8月4日頃に出穂予定)。(上越農業普及指導センター 7月17日現在) (糸魚川) 平年に比べてほ場間差が大きく、ややバラついた生育となっている。こしいぶきは7月3日に幼穂形成期となり(出穂期は7月27日の予想)、気象条件は(コシヒカリ)の幼穂形成期は平年に近い7月14日頃と推測。(糸魚川農業普及指導センター 7月10日現在) (佐渡) コシヒカリの生育は平年並に達しており、出穂期は平年並みの予想。草丈は並、葉数はやや多い。生育は並、葉色は並、出穂予想は8月8日。(佐渡農業普及指導センター 7月17日現在) 	<ul style="list-style-type: none"> 7月後半の葉いもちの発生は平年並であるが、斑点米カメムシ類は多い～やや多い予想。(新潟県農畜防除所 7月16日公表) 北陸の一部地域では、イネいもち病、イネ紋枯病の発生が「やや多い」、斑点米カメムシの発生は「多い」と予想。ニカメイガの発生は「多い」、フタオビコヤガの発生は「やや多い」と予想。(農林水産省 7月10日公表) 7月は、稲こうじ病の感染量が平年並～やや多く、斑点米カメムシ類の発生がやや多い～多い予想。(新潟県農畜防除所 6月27日公表) 								
		富山	(生育)	<ul style="list-style-type: none"> (コシヒカリ) 草丈と葉数、葉色は平年並み、葉数はやや多い。生育量(草丈×葉数×葉色÷1000)は148と、平年の136に比べて大きくなっている。葉色の低下は、前回の調査より約1ポイントと緩やかになっている。幼穂形成期は、平年より2～4日早い見込み。生育は、指標値に比べ草丈は「並び」、葉数は「多い」、葉色は「濃い」状況。出穂期は平年より3日程度早まる見込み。(富山県農林水産総合技術センター 7月17日公表) (てんこもり) 草丈、葉数、葉色ともに平年並み、幼穂形成期は、平年より3日早い見込み。出穂期は平年より3日程度早い、8月8日頃と見込まれる。 (てんかかく) 5月5日播種の出穂期は7月19日頃と見込まれる。(富山県農林水産総合技術センター 7月15日現在) (直接情報) <ul style="list-style-type: none"> 渚水土中直根栽培(カルパー)の生育状況は、草丈は62.3cm、葉数は580本/m²、葉齢は10.7、葉色は4.0。葉齢は平年に比べてやや早く生育し、草丈は平年並み、葉数はやや多くなっている。 渚水表面直根栽培(鉄)の生育状況は、草丈は60.5cm、葉数は552本/m²、葉齢は10.9、葉色は4.1。草丈、葉数、葉齢、葉色とも渚水土中直根栽培と同程度となっている。 乾田/渚水直根栽培の生育状況は、草丈は62.3cm、葉数は587本/m²、葉齢は10.2、葉色は4.0であった。近年に比べて葉齢がかなり進んでおり、草丈は長く、葉数は多い。草丈と葉色は近年並み、葉数は多くなっている。(富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月8日現在) 	<ul style="list-style-type: none"> 斑点米カメムシ類が多い予想、斑点米被害の増加が懸念。(富山県農林水産総合技術センター 7月17日公表) 北陸の一部地域では、イネいもち病、イネ紋枯病の発生が「やや多い」、斑点米カメムシの発生は「多い」と予想。ニカメイガの発生は「多い」、フタオビコヤガの発生は「やや多い」と予想。(農林水産省 7月10日公表) 7月の紋枯病の発生はやや多く、斑点米カメムシ類は多い予想。イナゴ科がやや多い予想。(富山県農林水産総合技術センター 7月1日公表) 水田内及び畦畔における斑点米カメムシ類の生息数が多く、斑点米被害の増加が懸念される。(富山県農林水産総合技術センター 6月26日付) 						
				石川	(生育)	<ul style="list-style-type: none"> ゆめみづの出穂が加賀地域、能登地域ともに見られ、近年より4～5日早い。能登ひかりの出穂は4日程度早く、コシヒカリは1～2日早い見込み(石川県農林総合センター 7月18日調査) 出穂期は早生で近年に比べ3～5日、コシヒカリで平年に比べ2日早いと予想される。ゆめみづ 能登 7月14日～19日(近年より3～5日早い) 能登 7月18日～22日(近年より5日程度早い) 能登ひかり 能登 7月22日(平年より4日早い) コシヒカリ 加賀 7月25日～8月2日(平年より2日早い) 能登 7月30日～8月8日(平年より2日早い) 草丈は、コシヒカリは平年比100%と平年並、ゆめみづは近年比103%と近年並、葉数は、コシヒカリは平年比98%(加賀地域96%、能登地域102%)と平年並、ゆめみづは近年比93%(加賀地域94%、能登地域90%)と近年並。 葉色は、コシヒカリは平年並に低下しているほ場が多いが、一部で平年に比べ濃いほ場が見られる。(農林総合研究センター 7月8日調査) 	<ul style="list-style-type: none"> 北陸の一部地域では、イネいもち病、イネ紋枯病の発生が「やや多い」、斑点米カメムシの発生は「多い」と予想。ニカメイガの発生は「多い」、フタオビコヤガの発生は「やや多い」と予想。(農林水産省 7月10日公表) 7月後半は、穂いもちの発生はやや多、紋枯病の発生は多、斑点米カメムシ類の発生は多と予想。(石川県農林総合研究センター 7月9日付) 7月前半のいもち病、紋枯病と斑点米カメムシ類の発生量はやや多い予想。(石川県農林総合研究センター 6月26日付) 				
						福井	(生育)	<ul style="list-style-type: none"> コシヒカリは平年より遅く最高分け時期を迎えている。草丈は平年より短い、葉数は平年を上回っており特に直根は葉数過剰となっている。 ハナエネ草の草丈は平年よりやや短く、葉数は一部を除き平年並みに回復している。25日頃から幼穂形成期を迎えている。(水田農業レバアップ委員会技術普及部会 7月3日現在) 	<ul style="list-style-type: none"> 北陸の一部地域では、イネいもち病、イネ紋枯病の発生が「やや多い」、斑点米カメムシの発生は「多い」と予想。ニカメイガの発生は「多い」、フタオビコヤガの発生は「やや多い」と予想。(農林水産省 7月10日公表) 7月は、ニカメイガ、イネツトムシ、イネアオムシの発生が平年より多いと予想。斑点米カメムシ類の発生が多くなる恐れがあるとの注意報。(福井県農業試験場 7月1日付) 		
								長野	(生育)	<ul style="list-style-type: none"> 豊利では草丈は平年より長く、葉数は多い傾向。最高分け時期で、畝間の見えにくいような葉数過剰の箇所も見られる。生育は、平年より2～3日早く、穂は揃っている。 豊利のあきたまちは、7月4日に幼穂形成期に入り、平年より3日早く、昨年より2日遅い。葉山は7月6～7日頃と思われる。 向こう1ヶ月の気温は平年並～高いと予想されており、早生穂の出穂は平年より早まる事が予想される。(松本農業改良普及センター 7月1日現在) 	<ul style="list-style-type: none"> 葉いもち等の発生は平年並み、イナゴの発生がやや多い予想。(長野県農畜防除所 6月16日付) 5月下旬のイネミスズコムシの被害度及び寄生虫数は平年より少なかった。また佐久地域の、一部でイネドロイシムシの成虫を確認。(長野県農畜防除所 6月2日付)

		生育状況等
滋賀	(生育)	<ul style="list-style-type: none"> ・草丈は、「コンシカリ」、「秋の詩」とも昨年より長かった。 ・葉数は、「コンシカリ」は昨年より多く、「秋の詩」は昨年よりかなり多かった。「秋の詩」は年比127%で、過去10年で最も多くなっている。 ・葉数は、「コンシカリ」は昨年より0.5枚多く、「秋の詩」は昨年より0.2枚多かった。 ・葉色は、「コンシカリ」、「秋の詩」とも昨年並。 ・「コンシカリ」の幼穂形成期は、昨年より少し早い。7月4日に幼穂長1mmが確認され、昨年(7月5日)より1日早く幼穂形成期を迎えている。ただし、気温の変動が大きく、移穂時期等により、生育の遅速は異なっている。 ・「秋の詩」は、最高分げつ期を迎えているが、昨年と比べ、生育は旺盛。 ・「みずかみ」(新品種)は、4月下旬から5月上旬移穂では、出穂期のピークは7月20日前後になる見込み。5月中旬移穂では、7月1日～7日に幼穂形成期を迎えており、出穂期のピークは7月26日前後になる見込み (滋賀県農業技術センター 6月30日現在)
兵庫	(生育)	<ul style="list-style-type: none"> ・(東北)葉齢、葉数ともに昨年を上回っている。特に葉数はかなり多くなっている。 ・(東南)葉齢は昨年を上回っている。葉数は昨年並み～やや少ない。(兵庫県環境部長 7月3日付)
岡山		<ul style="list-style-type: none"> ・県中盤での葉いもちの発生は発生率が昨年より高くなっている。今後さらに広がる可能性がある。(岡山県農畜生産課 7月14日公表) ・中国の一部地域では、イネいもち病、イネ結実枯病、イネ紋枯病の発生が「やや多い」と予報。ヒメトビウカの発生も「やや多い」と予報。(農林水産省 7月10日公表) ・7月の葉いもち、穂いもち、紋枯病、結実枯病、ニカメイガ、トビウカ、斑点米カメムシ類の発生量は、並の予報。ヒメトビウカ、ツマグロヨコバイの発生量はやや少、セジロウカは少の予報。(岡山県農畜生産課 7月2日公表)
広島		<ul style="list-style-type: none"> ・中国の一部地域では、イネいもち病、イネ結実枯病の発生が「やや多い」と予報。ヒメトビウカの発生も「やや多い」と予報。(農林水産省 7月10日公表) ・県内の一部地域で置き苗に葉いもちの発生が確認されている。いもち病が発生しやすい条件となっている。県南部と県中西部において、いもち病感染好適日が過去10年間で最も高い頻度で出現 (広島県西部農業技術指導所 6月27日公表)
山口	(生育)	<ul style="list-style-type: none"> ・7月17日に政市・肥前町で早期コンシカリの出穂が確認された。(山口県農水産部 7月22日) ・コンシカリ、ひとめぼれの生育は、5月中旬繰上げは、出穂20日前頃(7/11幼穂長5mm程度)、草丈と葉齢は昨年並み、葉数は多い。 ・5月下旬繰上げは、有効分げつ終止、期間(田植え後44日を経過)、草丈ははやや短い、葉数はやや多い、葉齢は昨年並。 ・6月上旬繰上げのきめむすびは最高分げつ期頃、ヒノヒカリは有効分げつ終止期頃、草丈はやや短く、葉数と葉齢は昨年並。(JA長門大津 長門農林事務所 7月11日現在)
愛媛	(生育)	<ul style="list-style-type: none"> ・早期栽培のあきたこまちらは6月下旬、コンシカリは7月上旬、短期栽培のあきたこまちは7月中下旬頃が穂肥時期となる。穂肥の施用時期は、幼穂長の観察による生育診断等の過期予測が重要。(愛媛県農林水産部/農林水産研究所 7月4日公表) ・四国の一部地域では、イネいもち病の発生が「やや多い」と予報。斑点米カメムシ類の発生も「やや多い」と予報。(農林水産省 7月10日公表) ・7月のいもち病(葉いもち、早期栽培では穂いもち)と斑点米カメムシ類(早期・単穂栽培)の発生量は並～やや多い予報。(愛媛県農畜生産課 6月30日公表) ・6月のいもち病(葉いもち)発生量は昨年並、ヒメトビウカの発生量はやや少～並の予報(愛媛県農畜生産課 5月27日公表)
高知	(生育)	<ul style="list-style-type: none"> ・早期稲は、天候に恵まれ、全般に生育は順調である。極早生の南国そだちは出穂期を迎えている。 ・普通稲は、一部地域では苗の供給遅れが生じたが、昨年のような水不足による移穂の遅れもなく、移穂後の生育は良好である。(高知県農畜生産課 7月4日付) ・(南国そだち 4月4日移穂) 5月30日調査時の草丈は昨年よりやや高く、葉数はほぼ昨年並、葉齢(生育速度)は昨年よりやや早い。(早稲こしかり 6月4日移穂) 5月30日調査時の草丈は昨年並、葉数は少なく、葉齢もわずかに遅れている。葉数が少ないのは、移穂直後4月上旬および5月上旬の低温の影響によるもの。(標準稲こしかり 4月14日移穂) 低温の影響で一時的に生育が遅れていたが、その後回復し6月3日調査時の草丈は昨年より高く、葉数、葉齢は昨年並みに推移。(高知県農業技術センター 6月20日付)
福岡	(生育)	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の中山間地の一部において葉いもちの発生が多い地区がある。(福岡県農畜生産課 7月18日公表) ・北九州の一部地域では、イネいもち病、イネ紋枯病の発生が「やや多い」と予報。斑点米カメムシ類の発生も「やや多い」と予報。 ・九州の一部地域では、トビウカの初飛来が確認されている。(農林水産省 7月10日公表) ・7月のセジロウカの発生量は昨年より少で昨年並。トビウカの発生量は昨年並で昨年より少。(福岡県農畜生産課 7月3日公表)
熊本		<ul style="list-style-type: none"> ・本年の海外飛来性害虫の飛来量は少ない(熊本県農畜生産課 7月17日公表) ・南九州の一部地域では、ヒメトビウカの発生が「やや多い」と予報。 ・九州の一部地域では、トビウカの初飛来が確認されている。(農林水産省 7月10日公表) ・7月の発生量予報(早期水稲) 穂いもち病、カメムシ類はやや少(単穂水稲) 葉いもち病は昨年並(普通水稲) 葉いもち病は昨年並(単穂普通水稲) セジロウカはやや少(熊本県農畜生産課 6月27日公表)
宮崎	(生育)	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の生育状況は、草丈が昨年よりやや短く、葉数は昨年並み、葉齢は昨年並みで、生育速度は昨年並みで順調に生育している。現在、幼穂形成期～穂ばらみ期を迎えている。出穂期は早いところでは6月23日頃、遅いところでは7月上旬頃とほぼ昨年並みの進度で生育している。 ・早期水稲 6月15日現在の生育ステージ(県全体) 幼穂形成期～穂ばらみ期で昨年並みの進度。草丈はやや低く、葉数は昨年並みと生育は概ね良好であり、順調に生育している。 ・(中部地区) 幼穂形成期～穂ばらみ期で昨年並みの進度。草丈は昨年より6cm短く、葉数・葉齢は昨年並み。出穂最盛期は6月27日頃と見込まれる。 ・(南部河川地区) 穂ばらみ期で昨年より3日早い進度。生育は順調で予想出穂期は6月23日頃と見込まれる。 ・(児湯地区) 幼穂形成期で昨年並みの進度。6月上旬から穂肥の施用が行われ、薄かった葉色が回復し、分けつもよく、生育は順調。 ・(東臼杵地区) 幼穂形成期で昨年より2日遅い進度。生育は良好であり、昨年より草丈は低く、葉数は昨年並み、幼穂長は平均0.9cmとなっており、7月上旬出穂であると思われる。(JA宮崎経済連ホームページ 6月15日現在)
鹿児島		<ul style="list-style-type: none"> ・南九州の一部地域では、ヒメトビウカの発生が「やや多い」と予報。 ・九州の一部地域では、トビウカの初飛来が確認されている。(農林水産省 7月10日公表) ・7月の発生量予報(早期水稲) 穂いもち病はやや多、紋枯病、斑点米カメムシ類は昨年並の予報(普通水稲) 葉いもち病はやや多の予報(鹿児島県農畜生産課 7月1日公表)

道府県	備考 気象関連公表資料（気象台等公表資料の抜粋）	参考 生産数量目標				収穫量(主食用) 25年産	作況指数 25年産
		平成26年産	前年産との比較	増減率	%		
全 国	<ul style="list-style-type: none"> 夏にエルニーニョ現象が発生する可能性はこれまでの予測より低くなった。秋に発生する可能性が高い。（気象庁 7月10日発表） （7～9月の3か月間の見直し） 偏西風は、8月までは平年の位置で強く、前線や低気圧の活動が活発となる見込みで、降水量は北日本で平年並みか多い見込み。 7月の東・西日本では、降水量が平年並みか多く、8月の西日本では、平年並みか多い見込み。 9月は、太平洋高気圧の日本付近への張り出しが弱く西日本では、気温が平年並みか低い見込み。 						
北 海 道	<ul style="list-style-type: none"> 北海道地方の7月19日～8月18日の1か月間は、平均気温は高く、降水量は平年並みか多く、日照時間は平年並みか少ない見込み。 期間の前半は、気圧の影響で平年に比べ曇りや雨の日が多い見込み。 気温は、1週目は高く、2週目は平年並、3～4週目は平年並みか高く、平均気温は平年より高い見込み。 （札幌管区気象台 7月17日発表） 	554,140	▲ 18,800	▲ 3.3	601,300	105	
青 森	<ul style="list-style-type: none"> 東北地方の7月19日～8月18日の1か月間は、平均気温は平年並みか高く、降水量は平年並みか多く、日照時間は平年並みか少ない見込み。 期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が多く、期間の後半は、平年と同様に、東北日本海側では曇れの日が多く、東北太平洋側では天気は数日の周期で変わる見込み。 気温は、期間の前半は平年並み、後半は平年並みか高い見込み。 （仙台管区気象台 7月17日発表） 	247,000	▲ 12,220	▲ 4.7	272,100	104	
岩 手	同上（仙台管区気象台 7月17日発表）	275,540	▲ 10,810	▲ 3.8	287,800	102	
宮 城	同上（仙台管区気象台 7月17日発表）	362,630	▲ 18,140	▲ 4.8	388,600	104	
秋 田	同上（仙台管区気象台 7月17日発表）	433,040	▲ 13,390	▲ 3.0	450,200	100	
山 形	同上（仙台管区気象台 7月17日発表）	358,570	▲ 15,630	▲ 4.2	386,100	102	
福 島	同上（仙台管区気象台 7月17日発表）	348,420	▲ 7,440	▲ 2.1	368,600	104	
茨 城	<ul style="list-style-type: none"> 関東甲信地方の7月19日～8月18日の1か月間は、平均気温は平年並みか高く、降水量は平年並みか多く、日照時間はほぼ平年並の見込み。 期間のはじめは大気の状態が不安定となるため、降水量は平年並みか多い見込み。 気温は、期間の後半に平年並みか高くなる見込み。 （気象庁 7月17日発表） 	341,550	▲ 7,340	▲ 2.1	398,900	104	
栃 木	同上（気象庁 7月17日発表）	309,330	▲ 12,220	▲ 3.8	334,900	102	
埼 玉	同上（気象庁 7月17日発表）	152,680	▲ 3,920	▲ 2.5	165,900	98	
千 葉	同上（気象庁 7月17日発表）	249,280	▲ 6,420	▲ 2.5	329,100	104	
新 潟	<ul style="list-style-type: none"> 北陸地方の7月19日～8月18日の1か月間は、平均気温は平年並みか高く、降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並の見込み。 平年と同様に、期間のはじめは曇りや雨の日が多く、その後は高気圧に覆われて晴れの日が多い見込み。1～2週目の気温は平年並、3～4週目は平年並みか高い見込み。 （新潟地方気象台 7月17日発表） 	535,640	▲ 10,030	▲ 1.8	594,400	103	
富 山	同上（新潟地方気象台 7月17日発表）	192,340	▲ 3,920	▲ 2.0	198,200	102	
石 川	同上（新潟地方気象台 7月17日発表）	126,400	▲ 3,000	▲ 2.3	130,500	101	
福 井	同上（新潟地方気象台 7月17日発表）	128,130	▲ 5,230	▲ 3.9	134,700	102	
長 野	<ul style="list-style-type: none"> 関東甲信地方の7月19日～8月18日の1か月間は、平均気温は平年並みか高く、降水量は平年並みか多く、日照時間はほぼ平年並の見込み。 期間のはじめは大気の状態が不安定となるため、降水量は平年並みか多い見込み。 気温は、期間の後半に平年並みか高くなる見込み。 （気象庁 7月17日発表） 	196,640	▲ 7,760	▲ 3.8	213,000	101	

	気象関連公表資料（気象台等公表資料の抜粋）	t		%	t	
滋賀	・近畿地方の7月19日～8月18日の1か月間は、平均気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並の見込み。 太平洋高気圧に覆われて平年と同様に晴れの日が多い見込みです。 気温は、前半は平年並み、後半は平年並みか高い見込み。 （大阪管区気象台 7月17日発表）	163,380	▲ 7,000	▲ 4.1	169,300	102
兵庫	同上（大阪管区気象台 7月17日発表）	181,930	▲ 6,010	▲ 3.2	189,800	100
岡山	・中国地方の7月19日～8月18日の1か月間は、平均気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並の見込み。 太平洋高気圧に覆われて、平年と同様に晴れの日が多くなる見込み。 気温は、1～2週目は平年並、3～4週目は平年並か高い見込み。 （広島地方気象台 7月17日発表）	160,190	▲ 5,850	▲ 3.5	163,800	97
広島	同上（広島地方気象台 7月17日発表）	130,130	▲ 4,270	▲ 3.2	132,600	99
山口	・九州北部地方（山口県含む）の7月19日～8月18日の1か月間は、平均気温、降水量、日照時間ともにほぼ平年並の見込み。 平年と同様に晴れの日が多い見込み。 気温は、1週目は平年並か低く、2週目は平年並で、3～4週目は平年並か高い見込み。 （福岡管区気象台 7月17日発表）	110,820	▲ 5,530	▲ 4.8	111,000	97
愛媛	・四国地方の7月19日～8月18日の1か月間は、平均気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並の見込み。 太平洋高気圧に覆われて、平年と同様に晴れの日が多い見込み。 気温は、1～2週目は平年並、3～4週目は平年並か高い見込み。 （高松地方気象台 7月17日発表）	74,490	▲ 1,690	▲ 2.2	74,900	99
高知	同上（高松地方気象台 7月17日発表）	50,050	▲ 1,700	▲ 3.3	57,900	98
福岡	・九州北部地方（山口県含む）の7月19日～8月18日の1か月間は、平均気温、降水量、日照時間ともにほぼ平年並の見込み。 平年と同様に晴れの日が多い見込み。 気温は、1週目は平年並か低く、2週目は平年並で、3～4週目は平年並か高い見込み。 （福岡管区気象台 7月17日発表）	184,380	▲ 6,860	▲ 3.6	182,500	96
熊本	同上（福岡管区気象台 7月17日発表）	189,920	▲ 7,790	▲ 3.9	188,300	97
宮崎	・九州南部地方の7月19日～8月18日の1か月間は、平均気温、降水量、日照時間ともにほぼ平年並の見込み。 太平洋高気圧に覆われて、平年と同様に晴れの日が多い見込み。 気温は、1週目は平年並か平年より低く、2週目は平年並、3～4週目は平年並か平年より高い見込み。 （鹿児島地方気象台 7月17日発表）	94,470	▲ 4,660	▲ 4.7	92,600	100
鹿児島	同上（鹿児島地方気象台 7月17日発表）	111,540	▲ 3,980	▲ 3.4	112,500	101

参考資料:

平成26年産米の都道府県別の生産数量目標について(農林水産省)

平成25年産水陸稲の収穫量(農林水産省)

「平成26年度 病害虫発生予報第4号」の発表について(農林水産省 7月10日)
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道 7月18日)、農作物生育状況 7月15日現在(北海道空知総合振興局 7月18日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道石狩振興局 7月18日)、農作物の生育状況 7月15日現在(北海道後志総合振興局 7月18日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道胆振総合振興局 7月18日)、農作物の生育状況 7月15日現在(北海道日高振興局 7月18日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道渡島総合振興局 7月18日)、農作物の生育状況 7月15日現在(北海道檜山振興局 7月18日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道上川総合振興局 7月18日)、農作物生育状況調査の概要 7月15日現在(北海道留萌振興局 7月18日)、
農作物の生育と農作業の進捗状況 7月1日現在(北海道オホーツク総合振興局 7月4日)、病害虫発生予察情報第8号7月予報・第9号(北海道病害虫防除所)、
病害虫発生予察情報第11号注意報第5号(北海道病害虫防除所)、作況調査報告7月10日現在(青森県産業技術センター農林総合研究所 7月11日)、
平成26年度水稲病害虫発生情報第3号(青森県病害虫防除所 7月18日)、平成26年度水稲病害虫防除指導情報第1号(青森県病害虫防除所 7月11日)、
平成26年度水稲の生育状況(7月10日現在速報)(中央農業改良普及センター 県域普及グループ 7月16日)、
平成26年度水稲生育定期調査結果No.5(岩手県農業研究センター技術部作物研究所・県北農業研究所作物研究室 7月16日)、
平成26年度病害虫発生予察情報第4号・注意報第3号(岩手県病害虫防除所)、平成26年度病害虫防除速報No.4 水稲編-2(岩手県病害虫防除所)、
平成26年産水稲の生育状況について 7月10日現在(宮城県農林水産部 7月11日)、平成26年度産稲作技術情報(第5号)(宮城県太田原農業改良普及センター 7月11日)、
平成26年度産稲作情報(第4号)(宮城県亘理農業改良普及センター 7月7日)、仙台稲作情報第8号(宮城県仙台農業改良普及センター 7月10日)、
平成26年産稲作技術情報第7号(宮城県大崎農業改良普及センター 7月10日)、平成26年産美里地区の稲作情報第5号(宮城県美里農業改良普及センター 7月2日)、
栗原の稲作通信平成26年5号(宮城県栗原農業改良普及センター宮城県米づくり推進栗原地方本部 7月14日)、
登米地域の稲作通信第6号(宮城県登米農業改良普及センター 7月11日)、稲作情報Vol.5(石巻農業改良普及センター 7月11日)、
稲作情報Vol.5(本吉農業改良普及センター 7月11日)、平成26年度発生予察情報発生予報第6号(概要版)(宮城県病害虫防除所)、
平成26年度発生予察情報発生予報情報注意報第1号(宮城県病害虫防除所 7月4日)、
生育状況の情報(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」<http://www.e-komachi.jp/> 7月18日)、
平成26年度農作物病害虫発生予察情報発生予報第3号(7月予報)(秋田県病害虫防除所)、
平成26年度農作物病害虫発生予察情報注意報第2号(秋田県病害虫防除所 平成26年7月10日)、
米づくり技術情報No4(山形の米日本一推進運動本部 6月30日)、つや姫だより第5号(庄内総合支庁 7月3日)、稲作だより第6号濃肥編(村山総合支庁 7月1日)、
つや姫だより第6号(山形県村山総合支庁 7月1日)、おきたま米づくり情報No.8(山形の米日本一推進運動置賜地域本部 7月4日)、
おきたま「つや姫だより」(山形の米日本一推進運動置賜地域本部 7月4日)、稲作だより第9号穂肥編(最上総合支庁 7月7日)、
つや姫情報第4号(最上総合支庁 7月7日)、おいしい米づくり情報第8号(庄内総合支庁 7月2日)、直播稲作情報第4号(庄内総合支庁 7月3日)、
酒田・飽海米づくり情報第7号(酒田農業技術普及課 7月9日)、酒田・飽海つや姫情報第6号(庄内総合支庁 7月9日)、
平成26年度農作物有害動植物発生予察情報発生予報第4号(7月)(山形県病害虫防除所)、
平成26年度農作物有害動植物発生予察情報注意報第1号(山形県病害虫防除所 7月2日)、平成26年度病害虫防除情報(福島県病害虫防除所 7月16日)、
主要な農作物の生育状況平成26年度第3号(福島県農林水産部 6月9日)、水稲の病害虫防除対策(6月)(福島県病害虫防除所)、
農研速報(水稲の生育状況)(6月20日現在、水戸市)(茨城県農業総合センター 農業研究所作物研究室 6月20日)、
農研速報(水稲の生育状況)(6月18日現在、龍ヶ崎市)(茨城県農業総合センター 農業研究所作物研究室 6月19日)、
病害虫速報No.3・No.4、No.5(茨城県病害虫防除所)、病害虫発生予報7月号(茨城県病害虫防除所・茨城県植物防疫協会)、
那珂川治水対策支部の解散について(国土交通省関東地方整備局)、
平成26年度水稲生育診断予測事業速報No.4(早期栽培・普通植栽培7月7日調査結果)(栃木県農政部 7月9日)、
平成26年度病害虫発生予報第3号・第4号(栃木県農業環境指導センター)、平成26年度病害虫発生予察注意報第1号(栃木県農業環境指導センター)、
平成26年度水稲の生育概況Vol.2(平成26年7月6日現在)(埼玉県農林総合研究センター水田農業研究所)、
平成26年度病害虫発生予報第3号(7月予報)(埼玉県病害虫防除所)、病害虫調査データ(埼玉県病害虫防除所 6月19日)、
病害虫防除情報(埼玉県病害虫防除所 6月11日)、
水稲の生育状況と当面の対策第4報(千葉県農林水産部 7月2日)、平成26年度病害虫発生予報第4号(千葉県農林総合研究センター)、
水稲の生育状況と今後の管理対策第5号(新潟県農林水産部 7月18日)、岩船米生育速報(7月17日現在)(村上農業普及指導センター)、
新発田地域水稲育成速報No.6(7月17日調査)(新発田農業普及指導センター 7月17日)、新潟稲作速報No.6(新潟農業普及指導センター 7月17日)、
稲作技術情報 No.5・水稲生育速報No.6(新潟農業普及指導センター 7月18日)、水稲生育速報(巻農業普及指導センター 7月17日)、
FAX稲作速報(三条農業普及指導センター 7月10日)、水稲生育速報(長岡農業普及指導センター 7月17日)、
7月10日現在の生育状況と今後の管理(魚沼農業普及指導センター 7月15日)、稲作情報(IA北魚沼・魚沼農業普及指導センター 7月14日)、
稲作情報No.8水稲生育速報(7月17日現在)(南魚沼農業普及指導センター)、稲作情報No.4(十日町版)(十日町地域農業振興協議会他)、
稲作情報No.4(津南町版)(十日町地域農業振興協議会他)、稲作管理情報6(柏崎農業普及指導センター 7月18日)、
水稲生育速報・コンヒカリ(上越農業普及指導センター 7月17日)、平成26年度糸川売れる米づくり情報メルマガNo.5(糸川農業普及指導センター 7月10日)、
平成26年度 稲作生育速報 No6(佐渡農業普及指導センター 7月17日)、平成26年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第4号(7月の発生予想)(新潟県病害虫防除所)、
平成26年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第5号(7月後半の発生予想)(新潟県病害虫防除所)、TACS情報第8号・(富山県農業技術課広域普及指導センター 7月15日)、
直播情報第5号(富山県農業技術課広域普及指導センター 7月9日)、病害虫発生予報第4号・病害虫発生注意報第2号(富山県農林水産総合技術センター)、
平成26年産水稲の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-8号)(石川県農林総合研究センター 7月18日)、病害虫発生予報第3・4号(石川県)、
稲作情報No.9(稲作情報作成委員会・水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月4日)、平成26年農作物病害虫発生予報第5号(福井県農業試験場)、
平成26年農作物病害虫発生予察注意報第2号(福井県農業試験場)、
平成26年度作物技術普及情報第13号(長野県松本農業改良普及センター 7月4日)、5月下旬の水稲巡回調査結果の概要について(長野県病害虫防除所 6月2日)、
病害虫発生予報第3号(向こう1ヶ月間の発生予報)(長野県病害虫防除所 6月16日)、
平成26年度水稲生育診断情報No.3(滋賀県農業技術振興センター 7月8日)、平成26年度病害虫発生予報第5号(滋賀県病害虫防除所)、
平成26年度病害虫発生予報第2号(兵庫県病害虫防除所)、平成26年度兵庫県農業気象技術情報第3号(7月情報)について(兵庫県農政環境部 7月3日)、
平成26年度病害虫発生予報第4号・植物防疫情報第2号(岡山県病害虫防除所)、稲作ワンポイントアドバイス(No5)(JA 長門大津・長門農林事務所 7月11日)、
農作物病害虫発生予報7月(山口県病害虫防除所)、平成26年度農作物病害虫発生予察注意報第2号・第3号(山口県 7月18日)、
気象情報に基づく技術対策-作物(平成26年7月)(愛媛県 7月4日)、病害虫発生予報(6月)(愛媛県)、病害虫発生予報(7月)(愛媛県)、
平成26年度水稲生育状況(6/6時点)(高知県農業技術センター 6月20日)、平成26年度病害虫発生予報第4号7月情報(高知県病害虫防除所 7月4日)、
普及指導センター情報(福岡朝倉普及指導センター)、平成26年度病害虫発生予報第4号7月情報・技術情報第1号(福岡県病害虫防除所 7月18日)、
管内IAニュース(IAグループ熊本ホームページ<http://www.ia-kumamoto.or.jp/>)、平成26年度病害虫発生予報第4号(7月予報)・技術情報第6号(熊本県病害虫防除所)、
平成26年産宮崎県早期米産地情報(平成26年6月15日現在)(宮崎経済連ホームページ<http://www.miyazaki-cha.jp/kome/index.html> 7月4日)、
平成26年度病害虫発生予報第3号(宮崎県病害虫防除所・肥料検査センター)、平成26年度病害虫発生予報第4号(7月)(鹿児島県病害虫防除所)

エルニーニョ監視速報(No.262)(気象庁 地球環境・海洋部)

北海道方向こう1か月の天候の見通し(札幌管区气象台)、東北地方方向こう1か月の天候の見通し(仙台管区气象台)、関東甲信地方方向こう1か月の天候の見通し(気象庁)、

北陸地方方向こう1か月の天候の見通し(新潟地方气象台)、近畿地方方向こう1か月の天候の見通し(大阪管区气象台)、中国地方方向こう1か月の天候の見通し(広島地方气象台)、

四国地方方向こう1か月の天候の見通し(高松地方气象台)、九州北部地方方向こう1か月の天候の見通し(福岡管区气象台)、九州南部・奄美地方方向こう1か月の天候の見通し(鹿児島地方气象台)